

# 協働的学びとは

課題解決のプロセスには、困難や失敗がつきものです。それを乗り越え、地域協働をやり遂げるために必要なのが、「判断力」、「粘り強さ」、「マネジメント力」です。協働的学びによって、これらの力を養います。

## 鍵となる2つのサイクル

最大の特徴は、地域での学び(実践)と大学の学び(座学)の往還。大学で学ぶ理論や専門性(=専門知)と、現場で必要とされる対応力や柔軟性(=実践知)を重ね合わせ、そのギャップを埋めながら、協働の本質を学んでいきます。さらに、すべての科目において個人学習とグループ学習を繰り返すことにより、学びの質と意欲を高めます。



### ▶協働はひとつではない

地域と大学の往還の中で、いくつもの協働が生まれます。

- ① 地域の多様な主体との協働:  
一般住民、地域の生産者、企業、商店街、地域活動団体、学校、行政など
- ② 学生同士の協働: 講義でのグループワーク、実習での役割分担など

### ▶グループワークと個人ワークの相乗効果

協働的学びの基本は、グループワークです。個人ワークの内容を仲間同士で共有することで、“気づきあい”、“刺激しあい”、“批評しあい”、“高めあい”の効果生まれます。

